

「バックナンバーは「GUNMAS」および当センターHP (<http://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>) に掲載しています

各部門の活動報告

地域医療支援部門 (群馬県地域医療支援センター)

「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」事業が始まります

この度、群馬大学は埼玉医科大学と連携し、文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択されました。両県の県境地域での医師不足の解消を目指す事業として、「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」が、10月から活動開始するにあたり、群馬大学では、医学科教務部会の下部組織として、8月にポストコロナ時代の人材養成ワーキンググループが設立されました。

医学科低学年から県境地域の医療について学習するための2つの新カリキュラム作成を予定しており、医学科以外にも全学部の1年次が聴講する「はじめて学ぶ地域医療」(総合医療学・小和瀬教授)と、医学科1~4年次を対象とした「県境地域から学ぶ地域医療集中演習(利根川プログラム)」(医学教育開発学・岸教授、地域医療研究・教育センター)について、準備を進めています。

地域への愛着と地域医療を担う資質・能力・マインドを持った医師、小児科・産婦人科・救急医療・感染症科を含め、総合診療・プライマリケアから高度・先端医療に精通する医師の養成を目指し、7年間の長期事業実施に努めてまいります。学生指導の際には、先生方にもご尽力いただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成

1. 事業の全体構想



埼玉医科大学

養成を目指す人材像

地域への愛着と地域医療を担う資質・能力・マインドを持った医師
小児科・産婦人科・救急医療・感染症科など診療科偏在を考慮し、
総合診療・プライマリケアから高度・先端医療まで、これから必要となる臨床能力を身につけている医師

カリキュラム開発の視点

- ① 埼玉・群馬の医療
- ② 将来地域で求められる医療
- ③ 地域医療と総合診療・プライマリケア
- ④ 人の暮らしを支える仕組みの理解
- ⑤ 地域医療実習の拡充
- ⑥ 感染症による危機管理への対応力の育成

埼玉・群馬県民の
健康長寿の実現



埼玉・群馬
県境地域での
勤務医師の増加



ロゴマークデザインについて

本事業をイメージしたロゴを両大学の学生等から公募した結果、中嶋理名さん(医学科3年生)の作品が最優秀賞として選ばれました。今後、ホームページや教材等資料に幅広く活用していく予定です。

医学科オープンキャンパス開催

8月12日(金)～19日(金)、昭和地区で医学科オープンキャンパスとしてスキルラボセンター・シミュレータ体験&研究室見学ツアーを開催しました。十分な感染対策を行い、県内外の中高生、総勢211人を対象に、対面で実施することができました。

スキルラボセンターでは、診察、診断のための検査、治療のための手技(3D解剖、分娩介助、腹腔鏡や内視鏡等)、基礎系研究室では、最新の研究設備の見学や電子顕微鏡観察など、様々な体験をしてもらいました。体験内容が参加日により異なり、当日のお楽しみ企画でありましたが、中高生たちは、目を輝かせながら積極的に参加していました。また、参加者の案内や担当する先生方のサポート役として、現役医学科生がお手伝いに駆けつけてくれました。昨年度のアンケートで、「医学部の先輩方ともっと話がしたかった」というご意見をいただいたため、今年度は新たな試みとして、体験・見学ツアー後に医学科生との懇談会を設定しました。

中高生からは勉強のモチベーションや大学生活に関する質問など、思い思いの質問が投げかけられました。中高生たちは、少し年上の医学科生の姿に触れて、自分の近未来が思い描けたようでした。アンケートでも大変好評であり、嬉しいコメントを多数いただきました。親切にご指導いただきました先生方、医学科生の皆さん、ご協力いただきました皆様に、この場をお借りし心より御礼申し上げます。

(アンケート結果: 図1満足度, 図2モチベーション, 吹き出し)

図1 本日の医学科オープンキャンパスの満足度を5段階で評価してください

	回答数	割合
大変満足	133	96%
やや満足	27	4%
普通	4	2%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
計	164	100%

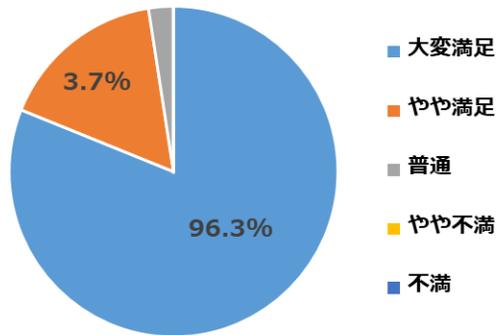
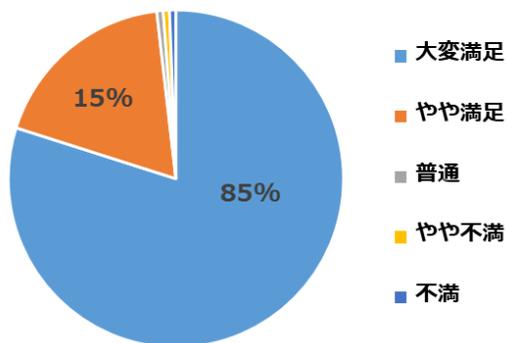


図2 本日の医学科オープンキャンパスは、医学部受験のモチベーションアップに繋がりましたか？

	回答数	割合
大変満足	131	85%
やや満足	30	15%
普通	1	0.6%
やや不満	1	0.6%
不満	1	0.6%
計	164	100%



フリーコメントより

- ・血圧の測り方や内臓の模型を用いた講座はとても面白く、好奇心を刺激されました。
- ・光学顕微鏡によるマウスの腎臓の観察、3Dの解剖実習など、医学部に行かないとできないことをオープンキャンパスで体験でき、貴重な経験になりました。
- ・解剖学では今まで知らなかった人体の秘密に迫れたようで、とても楽しかったです。



医学科オープンキャンパスの様子



腹腔鏡手術に挑戦中です！



聴診器を使って、呼吸音・心音を聴いています



腹部の臓器を観察しています



分娩介助の体験です。無事に赤ちゃんが生まれました！

シナリオトレーニングセミナー開催

講師に大阪医療センター総合診療部の松本謙太郎先生をお招きし、7月25日に今年度初めてのシナリオトレーニングセミナーを開催しました。

医学部医学科生5名、研修医を含む医師7名が参加し、チーム基盤型学習法(TBL; Team Based Learning)で活発なディスカッションが行われました。症例を通して、診断に至るプロセスを学習でき、大変好評を頂きました。今後も継続的に開催を予定していますので、ご興味のある方は、ぜひ一度ご参加ください。

新規シミュレータの導入について

今年度、スキルラボセンターに超音波診断装置FUTUS LE、バイメディックスが導入されました。超音波診断装置FUTUS LEは、組織の弾性評価や動脈の内中膜厚の計測等、豊富なアプリケーションが掲載されています。

プローブは、セクタ(心臓領域)、コンベックス(腹部)、リニア(体表)の3種をご使用いただけます。バイメディックスは、心臓・腹部超音波検査トレーニングシミュレータであり、超音波画像診断に必要な解剖学・病理学的知識をはじめ、画像読影スキルを習得することができます。

検査手技および診断法の学習等、幅広くご活用ください。

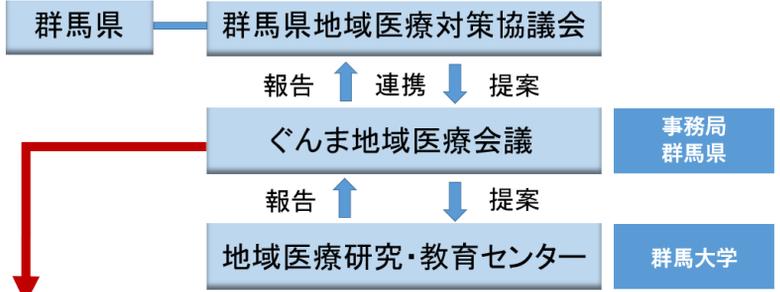
*ご利用を希望される方は、スキルラボセンターホームページ(<https://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/slc/>)よりお申込みください。



地域医療支援部門（ぐんま医療人ネットワーク）

ぐんま地域医療会議への参画について

地域医療支援部門（ぐんま医療人ネットワーク）では、今年度も、群馬県内の病院を対象に調査を実施し、医師の勤務状況を把握するよう努めるとともに、医師配置の要望等については、各診療科・医会へ照会し、書面でいただいた意見を取りまとめ、必要に応じて意見交換を行う予定です。業務でご多忙の中、ご協力いただいた皆様には感謝申し上げます。得られた結果は、「ぐんま地域医療会議」に報告し、医師の適正配置に向けた意見交換のための資料とさせていただきます。



- 第1回 会議の進め方の確認
- 第2回（予定） 病院調査結果報告：課題検討
- 第3回（予定） 医師適正配置方針の取りまとめ

取り組み結果報告

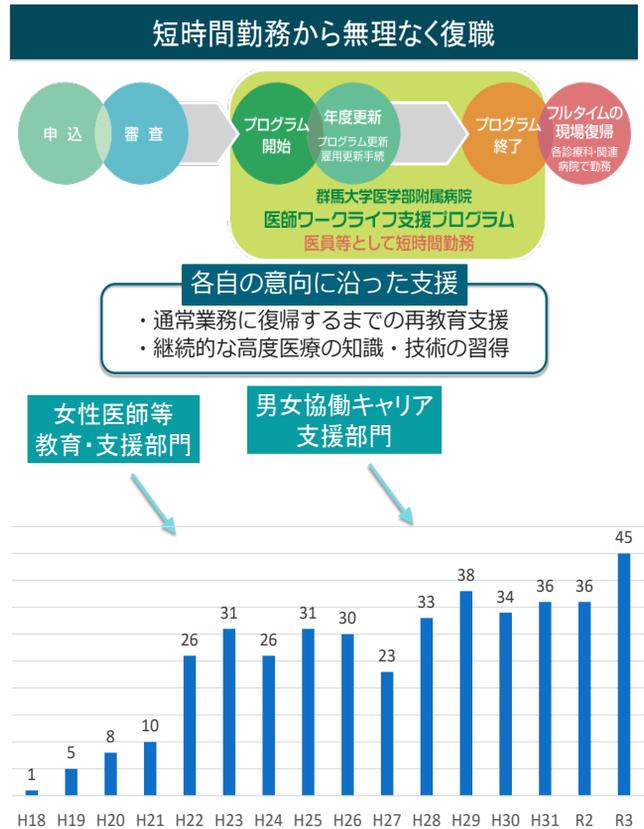
ぐんま医療人ネットワークでは、医師偏在の解消を目指し、県と共に医師適正配置に向けての活動に取り組んでいきたいと考えております。ご意見等ありましたら、ぜひお寄せいただければと思います。

男女協働キャリア支援部門

男女協働キャリア支援部門では、「医師ワークライフ支援プログラム」を活用し、臨床現場を離れた医師が、通常業務に復帰するまでの再教育支援、また、継続的な高度医療の知識・技術の習得を可能とするよう、各自の意向に沿った支援をおこなっています。

平成18年から、産後や育児休暇後などの女性医師に対して支援プログラムの運用が開始となり、平成28年には、男女を問わず全ての医師のワークライフの支援に努めています。

近年では、毎年30名を越える医師が利用しています。充実したキャリアを目指す医療者の現場復帰を支援してまいりますので、引き続き、ご利用を検討される方がいらっしゃれば、お気軽にお声がけください。



編集後記

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業の実施に際し、新たに専任スタッフ2名を迎えました。また、当センターでも、専任スタッフが着任し、新たな体制で学生指導、研修や診療業務の充実をサポートしていきます。